第64回日本社会学会大会

第64回日本社会学会大会は1991年11月3～4日，筑波大学において開催された．今年度は役員改選年に当り，本研究所の評議員でもある森岡清美会長の任期が終了し，総会において田原音和氏が新会長に選出された．

第1日午前・午後および第2日午前に行われた一般研究報告は，55部会（書評セッションを含む）に別れ，計233本の報告が登録された．本研究所からも，小島・鈴木両技官が報告を行った．それぞれの報告部会における論題と報告者は，以下のとおりである．

社会学史Ⅰ（司会者　佐々木交賢）

1. フランス社会学史および民俗学史におけるロジェ・バスティードの位置について……荒井　芳廣（神奈川工科大学）
2. 中間集団を巡る諸問題 ――デュルケムとトクヴィル―― ……高田　知和（早稲田大学）
3. デュルケムのドイツ認識……白鳥　義彦（東京大学）
4. デュルケムの社会学体系における人口学の位置……小島　宏（人口問題研究所）
5. 日本社会学史における「＜有機体論的社会学＞対＜心理学的社会学＞対立図式の再検討 ――日本社会学成立期における「意識」の問題を通して―― ……韓　栄恵（韓国聖心女子大学）

家族Ⅳ（司会者　海野道郎）

1. 現代女性の結婚年齢の動学的分析……中井　美樹（北海道大学）
2. 非常に疑わしい高学歴化と晩婚化の関係 ――未婚率の都道府県差に関する一考察―― ……池　周一郎（日本学術振興会）
3. 直系尊属の生存確率……鈴木　透（人口問題研究所）
4. 世代間における価値伝達の期待媒介モデル……土場　学（東北大学）
片瀬　一男（東北学院大学）

特に人口学的な研究が集中した家族Ⅳ部会では，第1および第2報告でとりあげられた高学歴化と晩婚化の関係をめぐって，興味深い議論が活発に行われた．

第2日の午後には4つのテーマ部会がもたれた．今回のテーマは以下のとおりであった．

1. 社会理論のフロンティア ―― NEXT STEP ――
2. 高齢者の扶養 ――その理念と現実――
3. 文化資本としての〝教養〟――近・現代社会にみる――
4. ヨーロッパ社会論 ――ＥＣ統合と「国民国家」の変容――

（鈴木　透記）

比較家族史学会

第20回研究大会が11月21日（木），22日（金）の両日武庫川女子大学第3学舎において開催された．

同学会は，「家族」研究をグローバルかつ歴史的視点にたって押し進める極めて学際的な学会であり，学会研究大会の統一性を保つため，自由報告よりもテーマ報告を，さらに各学問分野からの新しい成果発表を中心として研究大会が運営されている．

今回は，テーマ「子供の社会化」をめぐって，「1．家庭では子供の発達段階に応じてどのような社会化がなされてきたのか」，「2．地域社会は子供に対して社会化の面でどんな役割をはたしてきたのか」，「3．子供の社会化を比較文化の視点からみる」といった観点から社会史学，家族法，民俗学，文化人類学，社会学などの各分野から10の報告がなされ，引き続き同じテーマでシンポジウムが開催され活発な議論がなされた．

そのなかで，とりわけ「幼児ネットワークの変容」（落合恵美子）に関する報告は，育児，子育て支援のネッ